

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	毎床 玲音（大阪大学）				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	社会学の歴史は、近代社会の成立と共にある。本講義では、その近代の上に成り立つ現代において、社会学の諸概念や諸理論を概説的に取り上げ、複合的な社会に生きるわれわれの日常生活をみつめていく。それはまさに、自分の眼を自分の眼で見つめ直す行為である。つまり、本講義は、はり師・きゅう師を目指す受講生の省察を目的としている。				
教 科 書	武川 正吾, 佐藤 健二, 常松 淳, 武岡 暢, 米澤 旦 著 2025『社会学概論：何をどのように考えてきたのか』有斐閣アルマ. <u>（*購入する必要はありません）</u>				
参 考 書	井上 俊, 船津 衛 編 2005『自己と他者の社会学』有斐閣アルマ.				
	宇都宮 京子, 西澤 晃彦 編著 2020『よくわかる社会学〔第三版〕』ミネルヴァ書房.				
	大澤 真幸 2019『社会学史』講談社現代新書.				
	ケイン 樹里安, 上原 健太郎 編著 2019『ふれる社会学』北樹出版.				
	櫻井 義秀, 平藤 喜久子 編著 2015『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房.				
参 考 書	田中 正人 編著, 香月 孝史 著 2019『社会学用語図鑑』プレジデント社.				
	長谷川 公一, 浜 日出夫, 藤村 正之, 町村 敬志 2019『社会学（新版）』有斐閣.				
	早川 洋行 編著 2011『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房.				
参 考 書	間淵 領吾, 酒井 千絵, 古川 誠 編 2022『基礎社会学〔新訂第五版〕』世界思想社. ほか				

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で取り扱われる諸概念や諸理論を理解することができる。
目標 2	社会学の諸要素を日常生活において認識し、それらを自らの仕事や研究等に活かすことができる。
目標 3	講義で学んだ社会学を、自分の実生活や身近な現象等の場面で分析・判断し、説明したり応用したりすることができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	70			－		
平常点	30	算出方法	対面授業時の感想文など	－	算出方法	－
出席点	－	算出方法	－	－	算出方法	－
その他	－	算出方法	－	－	算出方法	－
試験日	後日伝達					

※ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	特記事項なし
実務経験をいかした教育内容	特記事項なし

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	【対面】4/10	オリエンテーション：「社会学」へようこそ	
2	〔動画〕4/17	個人と社会 自己と他者	
3	〔動画〕4/24	家族と親密圏 仕事と産業	
4	〔動画〕5/1	福祉と貧困 犯罪と逸脱	
5	【対面】5/8	病と医療 [調整]	
6	〔動画〕5/15	グローバル化と開発 社会階層と不平等	
7	〔動画〕5/22	都市・地域 権力と自由	
8	〔動画〕5/29	メディアと文化 宗教・政治・報道／ネット……「信仰」「三位一体」の時代	
9	〔動画〕6/5	方法としての社会学 社会学の歴史と理論の振り返り	
10	【対面】6/12	ジェンダー [調整]	
11	〔動画〕6/19	子どもと若者 教育と多文化共生	
12	〔動画〕6/26	現代社会Ⅰ：哲学 [調整]	
13	〔動画〕7/3	現代社会Ⅱ：文学 [調整]	
14	【対面】7/10	「区別」という差別 [調整]	
15	【対面】7/24	期末試験の返却 雑談会と後期の予告	
その他の事項			

■受講に際しての諸注意と配慮事項

講義実施日時と講義内容は、シラバスに記載の予定から変更される場合がある。また、本講義では、社会学という学問の性質上、内容によっては、受講生にとってストレスとなり得るような、センシティブなテーマや事象等が取り上げられることが予想される（受講生は無理をしないように、自分を優先してください）。

また、視覚（色覚を含む）や聴覚等においてなんらかの配慮が必要な場合は、講義担当者ないし学校関係者に事前に申し出れば、その申請に応じて講義を構成・展開する。

■成績評価にかんして

期末の筆記試験は、ノート持ち込み可の論述問題を出題する予定である。

出席の扱いにかんしては、学則ならびに細則の規定に拠る。

■講義担当者にかんして

●researchmap

https://researchmap.jp/Camus_Grenier/

●連絡先

メールアドレス（＊メールアドレスの★は@に置き換えてください）

u476463b★ecs.osaka-u.ac.jp

＊オフィスアワーは対面授業時の休み時間もしくは昼休み（@職員室）

基礎分野

(生物学)シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要				
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数
担当教員	益田 敦子			
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム	
授業目的	生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。			
教 科 書	教科書は指定しない			

具体的な到達目標	
目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	85%			
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	後日伝達			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☐	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き、タンパク質の構造	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き、	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質、脂質（誘導脂質）の構造と性質	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさと形	
8		細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
9		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置の構造と働き、細胞内における物質の流れ	
10		リソソーム、ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁の構造と働き	
11		細胞骨格の構造と働き、生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造	
12		細胞の進化、ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
13		細胞周期、体細胞分裂、染色体、減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		試験解説、トピック	
その他の事項			
・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。 ・パワーポイントを印刷したものを、配信前または配信後ほどなく配布するので、学習、復習に利用して下さい。 ・対面授業では、復習や質問に対する対応も行なう。			
推薦図書	絵でわかる細胞の世界	黒谷明美著	講談社サイエンティフィク 2001 年発行
	医学を学ぶための生物学	谷口直之、米田悦啓編集	南江堂 2004 年改訂第 2 版発行

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	医学の基礎となる解剖学のうち、「骨、関節、筋といった運動器」を学び、実技授業や臨床でも活用できるよう、その知識を修得する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	骨について説明することができる（特徴、構造など）
目標 2	関節について説明することができる（特徴、構造、働きなど）
目標 3	筋について説明することができる（特徴、構造、起始停止、作用、支配神経など）
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	8 0 %		8 0 %		
平常点	2 0 %	算出方法	課題等		
出席点		算出方法			
その他		算出方法			
試験日					

＊ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明、第1章 C. 組織と器官(支持組織、筋組織)、 第2章 A. 運動器系とは(1. 運動の仕組み、2. 解剖学的用語)	第1～2章
2		A. 運動器系とは(3. 骨の構造と機能、4. 関節の構造と機能)	第2章
3		A. 運動器系とは(5. 骨格筋の構造と機能(3. 筋線維と筋原線維は除く))	
4		A. 運動器系とは(7. 骨格筋の分類と補助装置(1. 赤筋と白筋は除く)) B. 全身の骨格(関節可動域)	
5		A. 運動器系とは まとめ、問題演習など	
6		B. 全身の骨格(脊柱、胸郭)	
7		B. 全身の骨格(上肢の骨格)	
8		B. 全身の骨格(下肢の骨格)	
9		B. 全身の骨格(頭蓋骨)	
10		B. 全身の骨格(脊柱～上肢のまとめ、問題演習など)	
11		B. 全身の骨格(下肢～頭蓋骨のまとめ、問題演習など)	
12		C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ①	
13		C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ②	
14		C. 全身の骨格筋(体幹部の筋)のまとめ、問題演習など	
15		試験フィードバック、前期のまとめ	
16		C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ①	
17		C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ②	
18		C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ①	
19		C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ②	
20		C. 全身の骨格筋(上肢～下肢)のまとめ、問題演習など	
21		C. 全身の骨格筋(頭頸部の筋)	
22		C. 全身の骨格筋(頭頸部の筋)のまとめ、問題演習など	
23		C. 全身の骨格筋のまとめ	
24		B. 体表解剖と主要な部位(体幹の体表解剖)	第12章
25		B. 体表解剖と主要な部位(上肢の局所解剖)	
26		B. 体表解剖と主要な部位(下肢の局所解剖)	
27		B. 体表解剖と主要な部位(頭頸部の体表解剖と局所解剖)	
28		第12章のまとめ、問題演習など (体幹、上肢)	
29		第12章のまとめ、問題演習など (下肢、頭頸部)	
30		試験フィードバック、後期のまとめ	

その他の事項

<課題について>

範囲ごとに課題を実施し、その得点を 20%換算したものを平常点といたします。

<担当者メールアドレス>

usui@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	所定の教科書を利用して、その章の基準に従って授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらって、それに対して、説明・解釈を加えていきます。また、必要に応じて、自作のスライドを見てもらいながらの説明もあります。				
	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教 科 書	解剖生理 医歯薬出版				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する。
目標 2	習得した系統をつなぎ合わせて、理解を深める。
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする。
目標 4	
目標 5	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	なし	算出方法	なし	算出方法	
出席点	なし	算出方法	なし	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		細胞の概要、遺伝子とゲノム	
2		細胞分裂、遺伝子発現	
3		体液と恒常性、体液の性質	
4		物質の移動	
5		第6章 血液と免疫（血液）、血液とその成分	
6		白血球、血小板と止血機構	
7		血液凝固、血液型	
8		第5章 循環系、心臓	
9		心臓の活動と検査	
10		血圧と脈拍	
11		血圧と脈拍、リンパ系	
12		第7章 呼吸器系、呼吸と換気、呼吸とその調節	
13		呼吸機能の測定	
14		酸素・二酸化炭素の運搬	
15		呼吸の調節	
16		第8章 消化器系と代謝・栄養（消化器系）、嚥下、胃液と胃運動	
17		小腸の運動、小腸における消化と吸収	
18		大腸の運動と分泌、排便、膵臓の外分泌機能	
19		肝臓の機能、食欲	
20		第10章 内分泌系と体温（体温）、概要	
21		体熱の産生と放散①	
22		体熱の産生と放散②	
23		温度受容器と体温調節中枢、体温調節機能	
24		第9章 泌尿器系、腎臓の機能	
25		尿の生成、糸球体におけるろ過	
26		尿細管における再吸収と分泌	
27		腎機能の測定	
28		尿の組成、体液pHの調整	
29		蓄尿、排尿反射	
30		予備	
その他の事項			

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	金井 優也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。本授業では、国家試験に対応できる力を育成することのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版				

具体的な到達目標	
目標1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験					
前 期				後 期	
試験成績	100%			100%	
平常点	—	算出方法	—	算出方法	—
出席点	—	算出方法	—	算出方法	—
その他	—	算出方法	—	算出方法	—
試験日	—				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅠ。ガイダンス。	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅡ。 第5章循環系：循環の概要と血管の構造について学ぶ。	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要について学ぶ。	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)について学ぶⅠ。	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)について学ぶⅡ。	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)について学ぶⅢ。	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（大動脈・胸大動脈）について学ぶⅠ。	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（腹大動脈）について学ぶⅡ。	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（総腸骨動脈）について学ぶⅢ。	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（上肢・頸部・顔面部）について学ぶⅣ。	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環について学ぶ。	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)について学ぶ。	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓)について学ぶ。	
14		第5章循環系：リンパ系(胸腺・扁桃)について学ぶ。	
15		第5章の総復習。	
16		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について学ぶ。	
17		第7章呼吸器系：気管系・肺について学ぶ。	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成について学ぶ。	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌について学ぶ。	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭について学ぶ。	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃について学ぶ。	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸について学ぶ。	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸について学ぶ。	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢について学ぶ。	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜について学ぶ。	
26		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等を総括的に学ぶ。	
27		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅠ。	
28		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅡ。尿路(尿管)について学ぶⅠ。	
29		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ。	
30		第7章・8章・9章の総復習。	

その他の事項

解剖学は形態・構造の理解を目指す学問です。人体の構造に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものと考えます。何度も反復学習することが重要になります。何か不明な点がございましたら、分からないままにせず、気軽に質問していただけたらと思います。

担当教員メールアドレス : y-kanai@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	井口 智弘				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「生理学」は、臨床医学・医療の全般の基礎、そして論理的な思考を与えてくれる学問です。また、ここ半世紀にわたり分子生理学は目覚ましい発展をとげ、益々生命科学分野において「生理学」は重要な科目となります。あはき施術者においても、近年の統合医療の観点から、他の医療従事者と連携を取る際の疾病の理解には必要不可欠な知識です。 本授業では、代謝・内分泌・生殖・神経の各分野について、健康成人の生理学的な人体の仕組みを学習し、加えて補足的に病態生理の知識も学習し、病理学・臨床医学科目へのつながりを意識した授業をおこなう。				
教 科 書	東洋療法学校協会，内田 さ，et al. 解剖生理：医歯薬出版：2022. 東洋療法学校協会，内田 さ，et al. 生理学，第3版 ed：医歯薬出版：2014. 本間 研，et al. 標準生理学，第8版 ed：医学書院：2014.				

具体的な到達目標	
目標 1	第 8 章：ATP を合成する過程について説明することができる。
目標 2	第 8 章：ビタミン・ミネラルの役割について説明することができる。
目標 3	第 10 章：ホルモンの種類と、その働きを説明することができる。
目標 4	第 10 章：ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標 5	第 11 章：月経周期とホルモンの関係を説明することができる。
目標 6	第 11 章：受精から分娩後のホルモンによる身体変化について説明することができる。
目標 7	第 3 章：神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標 8	第 3 章：大脳辺縁系・大脳基底核・新皮質のそれぞれの働きを説明することができる。
目標 9	第 3 章：間脳・脳幹・小脳のそれぞれの働きを説明することができる。
目標 10	第 3 章：末梢神経系(脳・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	期末試験 100%	期末試験 100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて 2 年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて 2 年間、往診専門で 4 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 2 年間の実務経験あり。		

**実務経験
をいかした
教育内容**

代謝・栄養疾患、内分泌疾患、婦人科疾患、神経疾患など広い範囲へ繋がる内容となります。
臨床時に想定される患者像と授業内容を、可能な限り関連付けながら進めていきます。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章 B. 代謝と栄養-1. 代謝とは	P. 226
2		第8章 B. 代謝と栄養-2. 糖質	P. 226～227
3		第8章 B. 代謝と栄養-3. 脂質,	P. 228～229
4		第8章 B. 代謝と栄養-4. タンパク質	P. 230～231
5		第8章 B. 代謝と栄養-5. ビタミン, 6. ミネラル 第8章「まとめ」	
6		第10章 A. 内分泌系の総論	P. 244～247
7		第10章 B. 内分泌系の各論-1. 視床下部と下垂体	P. 247～249
8		第10章 B. 内分泌系の各論-2. 甲状腺と副甲状腺, 3. ランゲルハンス島(膵島)	P. 250～253
9		第10章 B. 内分泌系の各論-4. 副腎	P. 253～255
10		第10章 B. 内分泌系の各論-4. 副腎, 5. その他のホルモン	P. 255～256
11		第10章 B. 内分泌系の各論-6. ホルモンによる体液の調整, 第10章「まとめ」	P. 256
12		第11章 A. 生殖とは	P. 262～269
13		第11章 B. 妊娠と発生	P. 269～273
14		第11章 C. 生体のリズムと加齢変化	P. 273～276
15		第11章 「まとめ」	
16		第3章 A. 神経系と神経組織-3. 神経細胞の興奮と伝導	P. 82～84
17		第3章 A. 神経系と神経組織-4. シナプス伝達	P. 84～87
18		第3章 B. 中枢神経系-2. 中枢神経系の統合機能	P. 87～89
19		第3章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (3) 大脳辺縁系, (4) 大脳基底核	P. 89, 92/P. 90～
20		第3章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (2) 新皮質,	P. 90～92
21		第3章 B. 中枢神経系-4. 間脳	P. 93, 95～96
22		第3章 B. 中枢神経系-5. 脳幹	P. 94～95
23		第3章 B. 中枢神経系-6. 小脳	P. 96～100
24		第3章 B. 中枢神経系-7. 脳波と睡眠, 8. 脊髄	
25		第3章 A, B「まとめ」	P. 100～103
26		第3章 C. 伝導路と運動調節-4. 運動反射	P. 103～104
27		第3章 D. 末梢神経系-1. 脳神経	P. 106～112
28		第3章 D. 末梢神経系-1. 脳神経 3. 自律神経系	P. 121～
29		第3章 D. 末梢神経系-3. 自律神経系	P. 121～
30		第3章 C, D「まとめ」	
その他の事項			

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の録音・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。紛失した場合の追加での印刷は行わない。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合がある。

担当教員からのメッセージ

専門用語に慣れることが、内容理解への第一歩です。焦らずに確認・復習を行なっていきましょう。

勉強するための環境や仕組み作りも大切です。ご自身に合ったものを今から構築していきましょう。

質問などがある場合、アンケートまたは、メールアドレスに送ってください。

アドレス：t-iguchi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	高橋 佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴概論は、あま指学を学ぶ上で重要な柱の 1 つである。経穴は、身体各部の状態が体表上に反映される部位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。				
教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第 2 版」（医道の日本社）				

具体的な到達目標	
目標 1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標 2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標 3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標 4	五行穴、五要穴を覚える。
目標 5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標 6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験						
前 期			後 期			
試験成績	80%			80%		
平常点	20%	算出方法	小テスト①～⑧	20%	算出方法	小テスト⑨～⑮
出席点		算出方法			算出方法	
その他		算出方法			算出方法	
試験日						

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	小テスト①
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	小テスト②
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト③
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	
10		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について①	小テスト④
11		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について②	
12		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について③	
13		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑤
14		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について②	
15		手の少陰心経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑥
16		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑦
17		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について②	
18		督脈～手の太陽小腸経の復習	小テスト⑧
19		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について①	
		前期試験	
20		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について②	
21		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について③	
22		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑨
23		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について②	
24		手の厥陰心包経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑩
25		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑪
26		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について②	
27		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑫
28		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について②	
29		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について③	
30		足の厥陰肝経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑬
31		足の太陽膀胱経～足の厥陰肝経の復習	小テスト⑭
32		五行穴・五要穴について	
33		その他の要穴について	小テスト⑮

34		胸腹部、腰背部の横並びについて
35		奇経八脈について、奇穴について①
36		奇穴について②
37		四肢の筋と経穴の関係
38		体幹の筋と経穴の関係
39		総復習
		後期試験
40		経絡経穴の現代的研究について、参考資料について

その他の事項

小テストは適宜、授業内で実施する。

担当教員(メールアドレス)

takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学の基礎理論について学習する。東洋医学的な生理、病理、診察、治療論について学習し、臨床に向け応用できる東洋医学的な人体の診方を涵養する。				
教 科 書	教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論				

具体的な到達目標	
目標 1	東洋医学の基礎理論について説明ができる。
目標 2	陰陽学説、五行学説、五行の性質を説明できる。色体表を書くことができる。
目標 3	生体物質について理解し説明できる。
目標 4	臓腑の特性、生理、病理について説明できる。
目標 5	奇経八脈の作用、役割、病態について説明できる。
目標 6	四診を用いて判断する。舌診、脈診の意味を理解し説明できる。
目標 7	問診と病態を関連させることができる。
目標 8	気血津液について原因、症状を説明できる。
目標 9	十二経絡病証、是動病、所生病から経脈の異常を判断できる。
目標 10	臓腑病証の区分を理解し説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80 点		80 点		
平常点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
出席点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
その他	20 点	算出方法	小テスト	20 点	算出方法 小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☐
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、授業ガイダンス	

2	東洋医学の仕組み、沿革	
3	陰陽学説	
4	五行学説	
5	五行の性質、色体表（自然界）	
6	五行の性質、色体表（人体）	
7	気血津液の生理①	
8	気血津液の生理②	
9	蔵象①（肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃）	
10	蔵象②（肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃）	小テスト1
11	蔵象③（肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑）	
12	蔵象④（肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑）	
13	病因病機①	
14	病因病機②	
15	病因病機③	
16	弁証方法の種類① 八綱弁証	小テスト2
17	弁証方法の種類② 表裏弁証	
18	気血津液の病理①	
19	気血津液の病理②	
	前期期末試験	
20	試験解説・前期まとめ	
21	総合演習（前期）	
22	臓腑病証（肝・胆）	
23	臓腑病証（肝・胆）	
24	臓腑病証（心・小腸）	
25	臓腑病証（脾・胃）	
26	臓腑病証（肺・大腸）	
27	臓腑病証（腎・膀胱）	
28	臓腑病証（腎・膀胱）	小テスト3
29	奇経八脈の作用・病証	
30	十二経絡病証①、（是動病、所生病）	
31	十二経絡病証②	
32	経脈・絡脈・皮部・経筋	
33	望診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い、舌診（形態、病態）	
34	聞診	
35	問診：臨床に即した問診方法（十問診①）	小テスト4

36	問診：臨床に即した問診方法（十問診②）
37	問診：臨床に即した問診方法（十問診③）
38	切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診
39	切診：『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診
	後期期末試験
40	試験解説・後期まとめ

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

配布資料：教科書と同様、毎時間持参してください。紛失した場合の追加での印刷は行いません。

单元ごとに googleform 用いた復習問題を実施するため、QR コードを読み取ることができる端末を各自用意してください。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合があります。

成績評価 前期：試験点数 80 点満点 小テスト 20 点（10 点の小テストを 2 回実施予定）

後期：試験点数 80 点満点 小テスト 20 点（10 点の小テストを 2 回実施予定）

担当教員からメッセージ

「初めての東洋医学は、わからない言葉が多く勉強することがたくさんあります。全ては患者さんを治すためにある学問です。あなたが治療家になるイメージを持ちながら授業を受講してもらえると学習効果も上がると思います。わからないことは放っておかず積極的に質問してください。」

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20	実施時間数	20
担当教員	松尾 卓				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「あん摩」「マッサージ」「指圧」の基本手技やその相違点について学ぶことにより、各種実技を行ううえでより具体的なイメージを持てるようになることを目的とする。 また、併せて「あん摩」「マッサージ」「指圧」の治療理論を知ることにより、より効果的な施術を行えるようになることを目的とする。				
教 科 書	あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 (※p1～40)				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩・マッサージ・指圧の違いを説明することができる。
目標2	あん摩の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標3	マッサージの基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標4	指圧の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標5	あん摩・マッサージ・指圧が生体に及ぼす作用について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で12年以上の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	あん摩マッサージ指圧の各種基本手技について教授する。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	科目概要の説明、あん摩マッサージ指圧の相違点	
2	あん摩・マッサージ・指圧の意義と沿革	
3	あん摩の基本手技とその作用	
4	マッサージの基本手技とその作用	
5	指圧の基本手技とその作用	
6	生体作用の機転の一般、循環器系・神経系に及ぼす作用	
7	皮膚・筋・関節・消化器・呼吸器・全身に及ぼす作用	
8	運動法の生体に及ぼす作用	
9	施術に応用できる体操法	
10	あん摩マッサージ指圧の治療効果	
その他の事項		
・教科書 p41 以降は3年生科目「アマ指理論Ⅱ」にて学習します。		

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「医療」は人々が「病」を克服するために、様々な文化的背景のもと、多彩な発展を遂げてきた。現在、我々が病院で受ける近代西洋医学はその一つであり、我々が生業とするあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師もまた一医療に過ぎない。時代、文化的背景ごとに異なる医療の歴史を学び、医療が持つ本来の役割、我々が生業とする資格の位置付け、生業の発展や技術の研鑽へのヒントとすることを目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 医療概論 医歯薬出版株式会社、1991 年				

具体的な到達目標	
目標 1	医療や病について、時代、文化的背景を踏まえて述べることができる。
目標 2	古代のギリシヤ医学、インド医学および中国医学の類似性について述べることができる。
目標 3	中世以前と近代以降のヨーロッパにおける身体観、疾病観および医学の変化について述べることができる。
目標 4	中国医学と我が国の医学の関係性について述べることができる。
目標 5	古代から中世日本における医療と病の概念について述べることができる。
目標 6	律令制度下における医学教育、治療実践について述べることができる。
目標 7	中世から近世日本における主な医学者とその治療理論について述べることができる。
目標 8	近代以降の医療の歴史（特に医制の制定や敗戦後の扱れ方）について述べることができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	レポート評価			
平常点		算出方法		算出方法
出席点	1 5 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
その他	8 5 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、1. 医学史序説、2. 医学史の意義と特質	
2		3. 西洋の医学と医療の歴史、1) 古代の医学	
3		3. 西洋の医学と医療の歴史、2) 中世の医学、3) ルネサンスの医学	
4		3. 西洋の医学と医療の歴史 4) 17世紀の医学、5) 18世紀の医学	
5		3. 西洋の医学と医療の歴史 6) 19世紀以降の医学	
6		4. 東洋の医学と医療の歴史、1) 古代インドの医学	
7		4. 東洋の医学と医療の歴史、2) 中国の医学 ①	
8		4. 東洋の医学と医療の歴史、2) 中国の医学 ②	
9		5. 日本の医学と医療の歴史、1) 古代以前、2) 古代の医学	
10		5. 日本の医学と医療の歴史、3) 中世の医学	
11		5. 日本の医学と医療の歴史、4) 近世の医学	
12		5. 日本の医学と医療の歴史、5) 近代の医学	
13		その他の医療の歴史	
14		レポート作成内容の調査（グループ学習など）	
15		問題演習、まとめ	
その他の事項			

【成績評価について】

・出席点：1回出席、1点

・その他：レポート評価（85点）

医療の歴史の授業を通して興味を持った内容について、レポートを作成すること。

記載内容：タイトル「医療の歴史レポート」・クラス・学籍番号・氏名 ※字数に含まない

①レポートテーマと選択した理由（例：西洋医学の歴史、東洋医学の歴史、人物など）

②学習内容について ※テーマに対して授業内容を補足する場合、情報の追加は可。

③学習内容を今後、どのように役立てるか

※末尾に文字数を記載すること(800字以内)

提出方法：①メール（usui@butsugen.or.jp） ※PDF、ワードなどのデータを添付のこと

②紙媒体 ※ワードなどで作成した文書を印刷、または、レポート用紙、原稿用紙へ手書き

提出期限：後日、アナウンスする

評 価：レポート評価は、秀(100点)、優(85点)、良(75点)、可(65点)、不可(50点)の5段階で評価します。

不可の場合、字数を増やすなどの内容修正の上、再度の提出となります(再提出は最大60点)。

※レポート評価を85%に換算し、出席点を加え、100点満点の評価とします。

例) 秀100点×85%=85点 → 85点+出席10点(欠席5回)=95点

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であるとする。 そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。				
教 科 書	教科書は指定しない				
	手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチ、シーツ（タオル）は毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標 1	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標 2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標 3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標 4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標 5	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標 6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標 7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	7 0 %			7 0 %		
平常点	算出方法			算出方法		
出席点	3 0 %	算出方法	1 回毎に欠席-2 点、遅刻-1 点	3 0 %	算出方法	1 回毎に欠席-2 点、遅刻-1 点
その他	算出方法			算出方法		
試験日						

★再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で12年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的な手技を中心に実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頸部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11	側臥位における頸部へのあん摩施術の練習	
12	前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15	前期実技試験、前期学習内容の復習	
16	前期実技試験、前期学習内容の復習	
17	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
18	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
21	腹臥位における頸肩部へのあん摩施術の練習	
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習	
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習	
25	坐位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26	側臥位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習	
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
その他の事項		
通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。 授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。		

専 門 分 野（ マッサージ実技Ⅰ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	マッサージは術者の手指をもって生体の皮膚に直接、主として求心性の手技により血液、リンパ液の循環を改善させ、生体の変調を調え健康を保ち増進させる施術である。求心性の手技を強弱の刺激として生体に加えることにより、生体に多種多様の反応が期待できる。様々な状況に対して施されるマッサージ施術は、基本手技（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・圧迫法）を組み合わせで成り立っており、基本手技の習得は不可欠である。本授業では、身体各部位に対する基本手技を繰り返し練習することで、マッサージの基本手技を習得することを目的とする。				
教 科 書	『あん摩マッサージ指圧実技 基礎編』医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	求心性に行う意味を説明できる。
目標 2	関節を超えて施術をする意味を説明できる。
目標 3	患者の皮膚に術者の手を密着させた軽擦法ができる
目標 4	手関節の柔軟性を生かした揉捏法ができる。
目標 5	リズムカルでスムーズな叩打法ができる。
目標 6	末梢からのリンパ液、静脈血の還流を促進するための基本手技ができる。
目標 7	各基本手技をスムーズにできる。
目標 8	体を使って施術ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %		7 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	3 0 %	算出方法 欠課 1 回毎に 2 点減点。 遅刻および早退 1 回毎に 1 点減点	3 0 %	算出方法	欠課 1 回毎に 2 点減点。 遅刻および早退 1 回毎に 1 点減点
その他	算出方法		算出方法		
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において 7 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年間の実務経験あり。

**実務経験
をいかした
教育内容**

臨床の場で必要となる相手への配慮を踏まえて、マッサージの基礎実技を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、マッサージの目的及び基本手技の説明	
2		運動法と矯正法	
3		基本手技の練習、手指・手部（座位）のマッサージ施術	
4		基本手技の練習、手部・前腕部（座位）のマッサージ施術	
5		基本手技の練習、前腕部・上腕（座位）のマッサージ施術	
6		基本手技の練習、上腕（座位）・足背（仰臥位）のマッサージ施術	
7		基本手技の練習、足背・下腿前側筋群・外側筋群（仰臥位）のマッサージ施術	
8		基本手技の練習、下腿前側・外側筋群・大腿内側・外側筋（仰臥位）のマッサージ施術	
9		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群（伏臥位）のマッサージ施術	
10		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群・大腿後面（伏臥位）のマッサージ施術	
11		基本手技の練習、背腰部（伏臥位）のマッサージ施術	
12		基本手技の練習、復習	
13		前期実技試験・フィードバック、背腰部（伏臥位）のマッサージ施術	
14		前期実技試験・フィードバック、背腰部（伏臥位）のマッサージ施術	
15		基本手技の練習、背腰部（伏臥位）のマッサージ施術	
16		基本手技の練習、殿部（伏臥位）のマッサージ施術	
17		基本手技の復習、頸部（座位）のマッサージ施術	
18		基本手技の復習、頭部（座位）のマッサージ施術	
19		基本手技の復習、腹部（仰臥位）のマッサージ施術	
20		基本手技の復習、腹部（仰臥位）のマッサージ施術	
21		基本手技の練習、手関節・肘関節（座位）のマッサージ施術	
22		基本手技の練習、手関節・肘関節・肩関節（座位）のマッサージ施術	
23		基本手技の練習、肩関節（座位）・足関節（仰臥位）のマッサージ施術	
24		基本手技の練習、足関節・膝関節（仰臥位）のマッサージ施術	
25		基本手技の練習、膝関節・股関節（仰臥位）のマッサージ施術	
26		基本手技の練習、股関節（仰臥位）・膝窩（仰臥位）のマッサージ施術	
27		基本手技の練習、膝窩（仰臥位）のマッサージ施術、後期復習	
28		後期実技試験・フィードバック、関節部のマッサージ施術	
29		後期実技試験・フィードバック、関節部のマッサージ施術	
30		全身の施術	
その他の事項			



授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	本校オリジナルの指圧テキストを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付、板書等交えながら実施する。特に安全面に注意しながら、効率的な身体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがって安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。				
教 科 書	京都仏眼鍼灸理療専門学校 指圧整体法テキスト				

具体的な到達目標	
目標 1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標 2	安全に操作する方法を説明できる。
目標 3	基本操作を手順通り行える。
目標 4	基本操作を安全に行える。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、他治療院2年間、往診専門で開業8年、本校附属治療所で10年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容			
回数	内容		備考
1	導入	オリエンテーション、授業概要の説明 指圧に関する基礎知識 1 あま指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度など	ホームルーム教室
2	導入	指圧に関する基礎知識 2 押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半）	姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査、肩の安全確認	

4	〃	背部全体の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）、体傾荷重について
5	〃	一側線の両母指圧
6	〃	二側線の両母指圧
7	〃	三側線の両母指圧
8	〃	肩甲骨周囲部の両母指間圧迫（内側縁）
9	〃	腰側線の両母指圧
10	〃	仙骨両側の両母指圧（挟み込み）
11	〃	下肢の掌圧及び母指圧操作固定に関して、固定の意義 （正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作、委中・アキレスの1点圧、足裏の操作）
12	〃	（内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）
13	〃	（外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）
14	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
15	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
16	試験後の総評	前期伏臥位総復習
17	伏臥位（後半）	肩上部、肩背部母指圧（T6,7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1側線上部）
18	〃	上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）
19	〃	肩甲骨内側縁の母指圧
20	〃	一・二・三側線の両母指圧（治療的）、腰側線の両母指圧
21	〃	仙骨孔の4点母指圧（後仙骨孔の指標）
22	〃	下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み）
23	〃	下肢操作（足関節の回転運動、膝関節回転法）
24	〃	下肢操作（前脛骨筋の手根圧、下肢操作復習）
25	〃	大腿前面部伸展法、腰部伸展法
26	〃	後半総復習
27	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
28	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
29	試験後の総評	後期伏臥位総復習
30	指圧総合	指圧伏臥位通し

第2実技室

その他の事項

<試験評価> 100%（クラスメイトまたは教員に対する施術を評価する）

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

<教員メッセージ>

「指圧実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術です。

自分の手で患者さんの身体を治療していく目標を掲げ、厳しくもやりがいのある指圧実技を限られた時間で学び取ってください！

志し高く1年間一緒に頑張りましょう。」